



最近の「モニタリングサイト1000」の動き

佐藤 直人、吉澤 泰輔、水落 朋子、井上 隆
(環境省自然環境局生物多様性センター 生態系監視科、保全科)



今回は、「モニタリングサイト1000 沿岸域調査（磯、干潟、アマモ場、藻場）」及びモニタリングサイト1000と同様に生物種の個体数変化のデータを収集している調査である「ガンカモ類の生息調査」の最近の動きを紹介します。



モニタリングサイト1000 沿岸域調査 (磯、干潟、アマモ場、藻場)

調査対象：底生生物（底生動物、海草、海藻等）

調査サイト：26サイト（図）

→今年度より藻場の室蘭サイト（北海道）を追加

東北地方沿岸に位置する大槌サイト（岩手県）、志津川サイト（宮城県）、松川浦サイト（福島県）は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響で調査の継続が懸念されたが、いずれのサイトにおいても、サイト代表者等の協力により調査が実施された。



図 沿岸域調査（磯、干潟、アマモ場、藻場）調査サイト位置

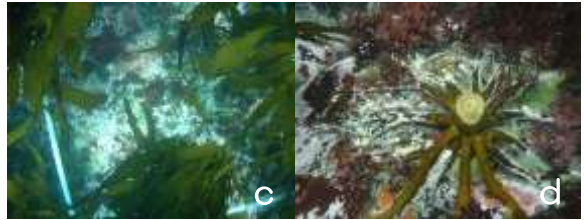
<大槌サイト（写真a; b）>

- ・アマモ場があった所はほとんどが無植生の砂底であった。
- ・海草類の実生がまばらに生えている場所も確認された。写真は吉里吉里で見られたオオアマモ(a)。
- ・カワハギ類の稚魚がガレキに群がっていた(b)。



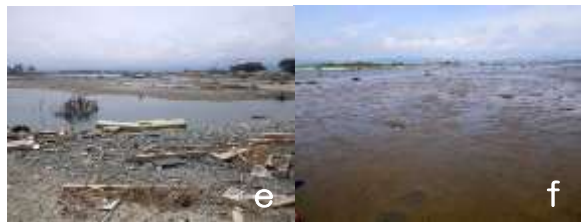
<志津川サイト（写真c; d）>

- ・群落の景観が著しく変わった場所はなかった。
- ・一部の海藻（写真はアラメ）では、損傷（葉状部の欠損や折れる）が確認されるなど津波の影響が示唆された(c, d)。



<松川浦サイト（写真e; f）>

- ・今年度の調査（6月）では30種以上を確認した。
- ・松川浦（鵜の尾）では干潟は小さく瓦礫が散在していた(e)。
- ・松川浦（磯部）では底生生物は極めて少なかった(f)。



モニ1000HP



モニ1000の
詳しい情報は
こちらへ

ガンカモ類の生息調査

ガンカモ類（ガン・カモ・ハクチョウ類）の冬期の生息状況を把握するための調査として、各都道府県の協力を得ながら、昭和44年度から現在まで、毎年1月に全国約9,000地点で一斉に調査が行われている。

- ・観察個体数の約9割をカモ類が占めている。
- ・カモ類の観察個体数は平成3年度頃までは増加傾向だったが、平成3年度頃からは横ばいに推移（図）。
- ・平成22年度調査（第42回）の確定値は平成23年7月11日に公表。

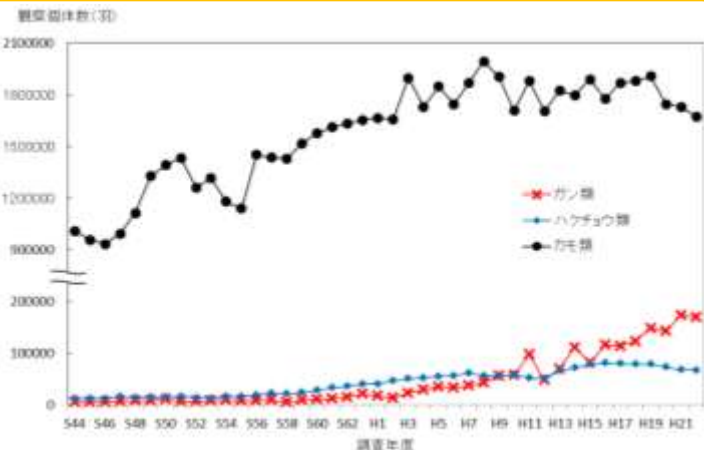


図 昭和44年度～平成22年度におけるガンカモ類観察個体数の推移